



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成28年11月

うるわし通信

美しい風景をつくろう

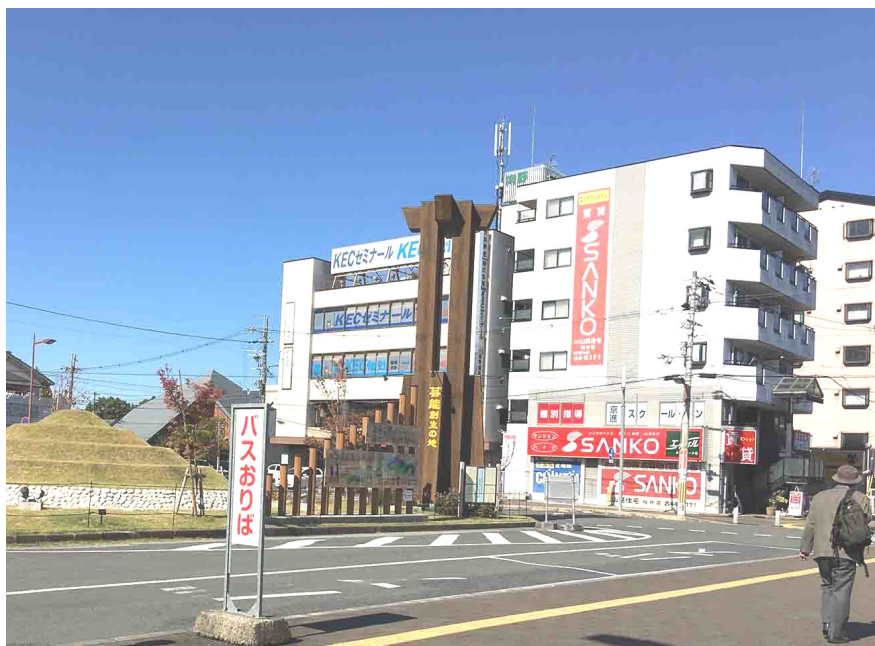
海外からの訪日客が、今年は空前の2000万人を超え京都も大阪も奈良市内もスーツケースを持った外国人であふれている。政府は観光を成長戦略の柱に据えて年間4000万人を目指すという。そのために地方にどれだけ客を引き付けることが出来るか、各地が必死に知恵を絞っている。どれだけ地方が魅力を持つことが出来るかの競争だ。

人が集まればビジネスも生まれ雇用も生まれる。訪日客のお目当ても名所旧跡だけではなく美しい風景、おいしい食べ物、参加できる体験などに移ってきている。桜井市にはこうした魅力がいっぱいある。

ところが残念なことに美しい風景が壊されつつある。もっともがっかりするのは桜井駅北口広場だ。駅に降り立って最初に目にはいる駅前の風景は第一印象を与えるので決定的に重要だ。市の努力で噴水が古墳形の造園に変わったのは結構だが、その後ろの賃貸住宅や学習塾の大看板が目飛び込んでくる。

まほろばの里、古代の国の雰囲気もあったものではない。大看板が逆効果だということに気づいてもらいたいと思う。

美しく魅力的な雰囲気のまちは人を引き付け住む人を増やし不動産価格も上がる好循環をもたらす。ビジネス繁栄のためには美しい風景をつくらなければならないのだ。



桜井駅北口の風景

解決策の一つに 公共広告という手法がある。大看板に例えば「うるわし大和へようこそ」と大書し、下段4分の一に会社の名前を広告で入れる。社会貢献している会社というイメージアップが得られる。好感度は会社名だけの広告とは比べ物にならないくらい良くなる筈だ。

他にもまだまだ問題は山積しているが、美しい風景づくりの運動は、あきらめずに息長く続けなければならないと思う。

うるわしの桜井をつくる会
会長 堀井 良殷

《なら文化祭2017》の開催を契機に、元気ある桜井づくりを！

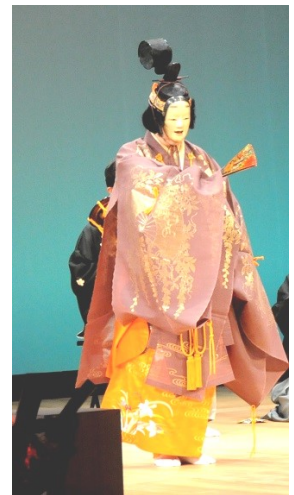
～11月3日は、文化の日～ 文化・芸術の力で桜井の元気づくり！

今年の文化の日は、制定されて68年目を迎えますが、来年の2017（平成29）年9月1日（金）～11月30日（木）までの3か月間にわたり、奈良県で全国初めての国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭が一体開催される《なら文化祭2017》が、開催されます。

今年は、そのようなことから、プレ《なら文化祭2017》として重要な年です。一体開催は、本年4月より本格実施された「奈良県障害のある人も ない人も ともに暮らしやすい社会づくり条例」の精神を踏まえたものであり、文化・芸術を通じた条例の具体化につなげていくことが期待されています。

県内各地で開催されるこのイベントには、全国各地はもとより海外からも多くの来訪者が予想され、奈良県内の文化芸術活動への関心が高まり、交流が広がる良い機会になります。昨年の第30回鹿児島での国民文化祭は、16日間での開催でしたが、速報値では延べ総参加人員163万人と紹介されています。

奈良県での延べ参加人員がどのようになるかは分かりませんが、非常に多くの人々が《なら文化祭2017》で関係づくりを行うことは間違いありませんし、この取り組みを通じて、歴史文化発祥の地と言われる桜井の元気づくり（観光・産業創造都市づくり）に繋げていくことが、求められていると考えます。それでは、どのような形で、《なら文化祭2017》とのつながりを桜井で作っていきましょうのでしょうか。



能楽「井筒」上演(市民会館)

～《なら文化祭2017》の基本理念・テーマ～

基本理念の中の一つに、【「大和は国のまほろば たたなづく青垣山ごもれる やまとしうるわし」と称えられた奈良は、日本文化を代表する様々な文物の発祥の地でもあります。同時に、古来の文化と渡来の文化が交流・融合を果たし、日本文化独自のダイナミズムが生み出された場所です。】と記されています。テーマにも、【日本文化の源流を探る】が謳われています。

このような指摘は、これまで桜井市をはじめ私たちがさまざまな機会に、対外的に情報発信してきた事柄です。現在、桜井市では上記の趣旨のもとに、関係諸団体が参画した「桜井 記紀万葉プロジェクト推進協議会」活動が展開されており、「大和さくら100選」選定事業、3年間にわたる「記紀万葉歌碑原書展」の取り組みや、地域歴史学習会の取り組み、相撲発祥の地顕彰事業、赤糸の小道事業などが、幅広く行われてきています。



土舞台顕彰碑(桜井公園)

これらの取り組みを踏まえて、桜井としての《なら文化祭2017》に向けた【日本文化の源流を探る】のテーマに添えていくことを、諸団体の参画のもとに地域の文化・芸術の力を結集していくことを早急に始めたいと考えます。

関係者の中では、桜井が古代の「伎楽」伝承に関わる土舞台顕彰をはじめとして「芸能発祥の地」として取り組んで来ていることや、中世の多武峰が「猿楽（能楽）の源流」であり「鼓の里」とも呼ばれていた歴史を持つことから、ユネスコの無形文化遺産でもある能楽に注目して、桜井の文化

的な歴史をクローズアップさせて行こうとの働きかけがあると聞いています。

このような取組みにも大いに期待したいものです。また、エーブルアートと呼ばれる「障がい者の芸術活動」についても、桜井は「たんぼぼの家」活動の原点でもあります。

2017年はあと2か月でやってきます。時間は限られていますが、読者よりの積極的なご意見をお寄せください。
(編集子 楠)

子どもは地域の宝～地域歴史学習会の取組み

国の「まほろば」桜井市には多くの歴史や文化遺産があります。当会では、桜井 記紀万葉プロジェクト事業の一環として、桜井市内の小学校に働きかけ、学校周辺に残る遺跡や万葉歌碑を自分たちの目で確認し、故郷に誇りを持てる子ども達に育ってもらうことを願って、6年生を対象に地域歴史学習会に取り組んできました。

桜井市教育委員会、地域自治会、観光ボランティアガイドの会等の協力を得て、平成27年度より安倍小学校での歴史学習に始まり、平成28年度には安倍小学校、城島小学校でも実施し、11月には朝倉小学校での開催を予定しています。

参加した子ども達からは、普段の遊び場であった公園に、古代には立派なお寺が建っていたことを聞いたり、通学路の傍で静かに顔をのぞかせている万葉歌碑に触れ、新たな感動を覚えた様子が伺えました。今後子ども達が故郷を巣立った後にも、私たちの住んでいた地域には素晴らしい文化遺産があることに誇りをもって、多くの人たちに話してほしいと願っています。地域によっては、子ども達による来訪者への「キッズガイド」の取組みを進めている所もあると伺っていますが、今回の取組みが、桜井からの継続した情報発信につながっていくものと考えています。

うるわしの桜井をつくる会 事務局長 高瀬安男



安倍小学校生徒（吉備池 万葉歌碑）



城島小学校生徒（外山 報恩寺）



安倍小学校生徒（安倍文殊院 西古墳）

うるわしの会 部会活動紹介

うるわしの桜井をつくる会では、これまで部会活動を通じて、会員の問題意識の提起を受け、会活動の広がりを進めてきています。今年の総会において、部会活動について一定の見直しを進めることが提起され、順次各部会での今後の方向について検討がされています。順次活動の紹介をしていく予定ですが、今回、歴史関係の活動について、報告を頂きましたので、掲載します。

歴史部会という漠然として名称を改め『敗者に学ぶ歴史の会』といたしました。少し名称が長いので、別名『秘史の会』とします。

権力が与える歴史書は、いくらでも出版され、書店に並べられます。わたしたちの目指すのは民衆史です。わたしたちは幻となってしまった現実を拾い集めたいと思います。なお、『秘史の会』を第一名称としない理由は、スキャンダラスな秘を追う会という誤解を避けるためです。



10月29日 演題「伊能忠敬 大和路東南部を測量する」

2か月に1回程度の例会を定例化し、地域の歴史研究の報告をもとにして意見交換を通じて、民衆のたくましさや、地域に根付いた誇るべきことを発掘していっています。

(世話人 浅川 肇)

お知らせ

●図書館友の会

11月の読書会は、『パルタイ』倉橋 由美子著を読みます。

1960年女子大生は作家デビューを果たす。「パルタイ」は一躍、文壇という大海で脚光を浴びることになる。倉橋由美子はこの時、25歳であった。

日 時 11月22日(火)午後1時30分から

場 所 まほろばセンター市民活動交流拠点

問い合わせ先 浅川 肇 TEL: 090-1961-6345

友の会会員以外の参加も歓迎します。



【編集後記】 近鉄桜井駅北口の歩道上に、郵便ポストと公衆電話のある所に飲物の自動販売機が設置され、その横に置かれている「缶入れ」が空き缶だけでなく、いつも他のごみも入れられ、あふれ出ている。ごみを入れる人のモラルの問題、設置事業者の清掃が行き届いていない問題、この場所に自動販売機の設置を認可したことなど、多様な意見や指摘があるが、駅前を汚しており、対策が急がれる課題、小さくても大きな問題である。(K)

うるわし通信発行人
高瀬 安男
TEL: 090-1678-9157